

平成20年度 教師海外研修（派遣国：マレーシア）実践報告書

1. タイトル 日本とマレーシアのかかわりを知ろう
2. 氏名 山下 亮
- 学校名 京丹後市立五箇小学校 担当教科 全教科
3. 実践教科 総合的な学習の時間 時間数 6時間
4. 対象生徒・学年 小学校4年生 対象人数 15名
5. カリキュラム案

（1）実践の目的

- ・地球にはいろいろな国や地域、文化があるということを感じさせる。
- ・日本のものが世界中の国々で使われていることを知らせる。
- ・豊かさを交換する中で、持続可能な社会のありかたについて考えさせる。

（2）授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 2限目 テーマ： マレーシアってどんな国？ ねらい： マレーシアボックスやスライドを通して、マレーシアがどんな国なのか興味・関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀やグーグルアースを使ってマレーシアの位置を確認する。 ・マレーシアのスライドを使って、どんな国なのかのイメージを掴ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀 ・マレーシアで収集したモノや写真 ・プロジェクター
3限目 テーマ： マレーシアと日本はつながっている？1 ねらい： マレーシアにはたくさんの日本の製品や文化が輸出されていることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家にある電気製品や車などがどこのメーカーで作られているか確認する。 ・マレーシアにある電化製品や車、お店にならんでいるアニメソフトなどを知り、日本のものがたくさん輸出されていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が調べてきたメーカーを書いたワークシート ・マレーシアで収集したモノや写真 ・プロジェクター

<p>4 限目 テーマ： マレーシアと日本はつながっている？2 ねらい： マレーシアから日本へは、パーム油がたくさん来ていることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本からたくさんのものがマレーシアに行っていることをもとに、反対に日本にきているものが何かを考えさせる。 ・ パームプランテーションの画像などを使って、パーム油についてのイメージを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マレーシアで収集したモノや写真 ・ プロジェクター
<p>5 限目 6 限目 テーマ： マレーシアの環境と、日本のゴミ問題について考えよう ねらい： 大量消費社会が自然破壊につながっている事を知らせ、自分にできることを考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ パーム油が使われている製品を持ち寄りまとめる。 ・ パームプランテーションと環境破壊の関係を写真やビデオを使って実感する。 ・ 持続可能な社会にするために自分達でできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マレーシアで収集したモノや写真 ・ プロジェクター ・ ビデオ

6. 授業の詳細

1・2限目：マレーシアってどんな国？

まずは地球儀を使って日本の位置とマレーシアの位置を確認した。地球儀の中では日本とマレーシアは近いように見えるが、飛行機で何時間もかかると言う話を聞いて子どもは感心していた。

次にマレーシアで撮影してきた写真を使って、マレーシアがどんな国であるのかをイメージさせた。まずは気候的に熱帯であり、一年中暖かく冬がないことを指導したところ、四季がないことに子どもたちは驚いていた。また、ムスリムがいたりインド系の人や、華人系の人や、色々な民族が住んでいることや、日本とは異なる文化であること、都会もあれば田舎もあるということなどを興味深く見ていた。（写真①②）

その後、モノ（お金・新聞・セパタクローのボールなど）を使ってどんな国かをイメージさせた。お金の材質が違ったりいろいろな言語でかかれた新聞があることから、お店の様子を気にする児童もいたが、日本のマンガ本やアニメがたくさん流通していることに驚く児童も多かった（写真③）。そのことをきっかけに、マレーシアにはどれくらい「日本のもの」があるのかを調べることにつなげていった。まずは、自分達の家にある車や電気製品のメーカーを調べてくることを宿題にした。

【児童の感想】

- ・ マレーシアのお札は、プラスチックからできていることがわかった。日本は紙だからびっくりした。
- ・ ドラえもんがマレー語で話していておもしろかった。
- ・ いろいろな人がすんでいることがわかった。
- ・ 日本のものがあるのにびっくりした。ほかにもあるのかな。

3 限目：マレーシアと日本はつながってる？ 1

自分達の家にある車や電気製品がどこのメーカーであるのか調べてきた内容を発表した。自動車はほぼ全てが日本製で、家電製品もほとんどが日本のメーカーのものだった（写真④）。そのことをふまえながら「マレーシアで見つけた日本」をまとめたプレゼンテーションを見た。見かけた車・バイクやホテルにあったテレビ、観光地で多くの人が持っているカメラ、町にあるコンビニ、お店にあふれるゲームやおもちゃ、など、いたるところに日本が関係しているものがあることを伝えた（写真⑤⑥）。

マレーシアには、実に様々な所に「日本」が存在しているので、マレーシアは自分達とは関係のない遠い国ではなく、自分たちともけっこう近い存在であることを子どもたちは理解した。

日本からたくさんのものがマレーシアに行っていることを理解した一方で、反対にマレーシアから日本へはどんなものが来ているのかということに話題を転換して「マレーシアからは、パッと目にはつかないけれど、パーム油がたくさん来ている」ということを教えた。

【児童の感想】

- ・ 自分の家には日本のものが多かった。
- ・ マレーシアには、日本のものがいっぱいあってとってもびっくりした！それに、日本にも、マレーシアのものがあってびっくりした。
- ・ マレーシアは外国なのに、日本のものがたくさんあった。日本語も使われていたのですごいと思いました。
- ・ 今度は日本にはマレーシアのものが何個あるか調べたいです。

4 限目：マレーシアと日本はつながってる？ 2

マレーシアからは日本へはパーム油がたくさんきていることを前時に押さえたので、パーム油とはどんなものであるのかの解説を行った。パーム油の良い所やどんな所で生産されているのかを伝え、どんな製品に使われているのかを指導した。日常生活のいろいろなところに使われている事に驚く児童が多かった。（写真⑦⑧⑨）

自分達で実際にパーム油が使われている製品を探し、まとめる事を宿題にして、次につながげた。

【児童の感想】

- ・ パームヤシは、たくさん油を作っていることがわかった。
- ・ プランテーションで作られたパーム油が、マレーシアからたくさん来ていることがわかった。
- ・ パーム油は、日本で使われている事がわかった。
- ・ 日本には、パーム油と言うのがきていることがわかった。

5・6 限目：マレーシアの環境と、日本のゴミ問題について考えよう

子ども達が持ち寄ったパーム油が使われている製品をまとめた（写真⑩⑪⑫）。いろいろなところでパーム油が使われていて、パーム油は自分達の日常生活と深く関わっていることを理解した上で、パーム油の問題点についてプレゼンテーションとDVD（素敵な宇宙船地球号～ボルネオ象前編）を使って説明した。

自分の意識していないところで、自分たちの生活が環境問題と深く関わっていること

を知り、それぞれにできることを考えた。生態系を守ることと、ごみを増やさない事を考えさせ、それぞれの今後の生活に活かしていきたいことを考えさせた。

【児童の感想】

- ・ パーム油を買うときは必要な分だけ買おうと思った。
- ・ 二酸化炭素を吸う木を植える。
- ・ むだづかいをしない。
- ・ 自分が大きくなったらできるだけ木を切ったりしない。森をつぶさないで、あれているところに木を植える。森をふやす。
- ・ むだなものを買っていくとどんどん地球温暖化になっていくからむだな物を買わないようにする。

【授業を終えた後の児童の感想】

- ・ パーム油はマレーシアのボルネオですごくいっぱいとられていることがわかった。ゾウがわなにかかって鼻や足にロープがまきついてかわいそうだった。でも作っている人たちにはゾウが食べるので来てほしくないと思っているから、どうしたらいいのかなと思った。私は、パーム油はふつうにとられているかと思ったけど、人間とゾウが戦いみたいなことをしていてびっくりした。
- ・ 人間達が生きようとしたらほかの動物達がこまるし、動物を人間が守ろうとして森を壊さないで（パーム油の）木を植えなかったら人間がこまると思った。こんなに動物がこまっていることがわかった。
- ・ わたしは、たくさん、パーム油などが原材料となっているものを食べたり使ったりしていたけど、ほかの国では動物が困ったりしている事がわかった。だから、パーム油などが使われているものを買うときは、他の国のことを考えようと思った。

7. 授業実践を通しての所感・反省点・今後の改善策

今回の海外研修は、私にとって二度目の海外の経験であり、非常に多くのものを学ばせていただきました。日本企業が外国でも活躍している事はニュースなどで知っていましたが、その活躍ぶりを実際に目にすることができたのは非常に貴重な体験でした。このことをまず子ども達に伝えたいと考え、「日本と外国（マレーシア）はどんなふうに関わっているのか」という視点で授業を構成しました。

子どもたちはまだ小学校の4年生と言う事もあり、自分の住んでいる場所が日本のどの辺りであるかと言うことを学ぶ段階ですが、自分達が地球に住んでいて、その地球にはいろいろなところにいろいろな人が住んでいること、それぞれ異なった「常識」をもって生活していることを感じることができました。また、パーム油という普段生活している中では気づかないものに焦点を当てることで、子供たちに「物事を詳しく見る眼」や、観察・調べ学習のポイントのようなものを考えさせる事ができました。

今回の授業は総合的な学習の時間で学習している「ごみから学ぼう」の番外編として扱いました。日本からたくさんの物が輸出されていること、反対にたくさんのものが輸入され、消費され、ごみとなることから、ごみを増やさないために自分達にできることを考えました。熱帯雨林の減少と野生生物絶滅の恐れ、反対に日本では大量消費社会のごみ問題があることを知らせることはでき、自分たちの生活が野生生物の生存にまで関係していることを知ることはできました。ただ、子ども達が「自分達にできること」と

して「無駄な買い物をしない」と考える事はできましたが、それ以上はなかなかイメージを持ちづらかったようでした。

改善策としては、生産者・企業・消費者の三つの視点からそれぞれの願いを考えると思考も深まるように思いますが、4年生の段階では難しいかもしれません。

全体を通して、子どもたちは興味を持って意欲的に学習することができました。これからも、自分と世界とのかかわりについて考えることのきっかけになる授業だったと思います。

8. 参考資料

- ・ビデオCD「ドラえもん」（マレー語版）
- ・マンガ「ドラゴンボール」（マレー語版）
- ・マンガ「ドラえもん」（中国語版）
- ・TV番組「素敵な宇宙船地球号『パーム油と小ゾウ』」

9. 授業の様子

1・2限目：マレーシアってどんな国？



①



②



③

3限目：マレーシアと日本はつながってる？1



④



⑤



⑥

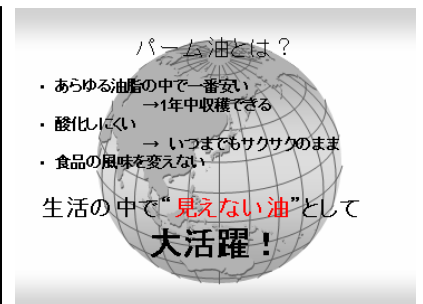
4限目：マレーシアと日本はつながってる？2



⑦



⑧



⑨

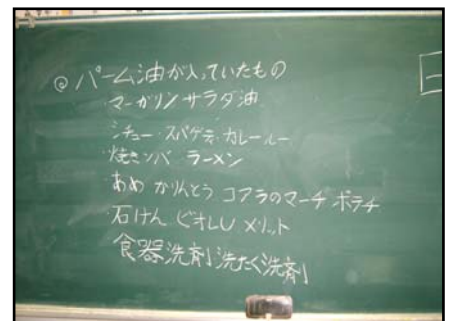
5・6限目：マレーシアの環境と、日本のゴミ問題について考えよう



⑩



⑪



⑫